

風邪用貼付剤による有害事象

Q：外国で風邪のときに用いる貼り薬で副作用（有害事象）があったそうですが、の本で売られている薬は大丈夫なのでしょうか？

A：カナダでの事故ですすでに回収されていますし、わが国では同じ薬は販売されていませんので、ご安心下さい。ただし、類似の“解熱用シート”は薬局・薬店で売られています。お子さんがなめたり、口に入れたりしないよう、ご注意下さい。

カナダで小児の風邪に伴う諸症状（鼻づまり・くしゃみなど）を緩和する目的で使用されていたカンフル、メントール、ユーカリ油含有の貼付剤（トリアミニック・ヴェポパッチ®＜Triaminic® Vapor Patch®, Novartis Consumer Health 社製造＞）を、小児が誤って口に入れ噛み続けることによる有害事象（発作）の発生した例が1件ありました。製造販売会社は自主回収し、カナダ保健省は消費者に対しすぐに使用を中止するように呼びかけました。

日本では、該当商品は販売されていませんが、類似した商品が医薬部外品として販売されているため、厚生労働省は安全対策措置を講じるよう通知（平成18年6月30日）を出しました。現在まで、有害事象の報告は厚生労働省にありませんが、薬局での販売時には、お子さんの口に入らないように保護者に注意をうながす必要があります。

主な成分の作用

d1 - カンフル：皮膚を刺激して軽い炎症を起こすことにより、反射的に血管を拡張させます。それにより栄養状態の悪い皮膚、局所の疾患の治癒を促進します。消炎、鎮痛、鎮痒作用も示します。副作用は、発赤、発疹などが現れることがあり、長時間の貼付や大量に広範囲に貼付しない等の注意が必要です。

l - メントール：皮膚を刺激し、熱感、発赤、疼痛などをおこすほか、冷感の作用で末梢の知覚神経に軽度の知覚麻痺をひきおこします。これにより、鎮痛、鎮痒作用を示し、肩こりや筋肉痛に伴う痛みを抑制する効果が期待できます。殺菌や防腐作用もあります。副作用は、蕁麻疹、紅潮等の過敏症があり、皮膚の弱い人に用いる場合には、長時間の貼付や大量に広範囲に貼付しない等の注意が必要です。また、少量を内服すると胃粘膜を軽く刺激したり、芳香・清涼味により反射的に消化管の運動、分泌、吸収などの諸機能を亢進します。胃粘膜感覚を鈍麻して鎮痛、鎮吐作用を現します。

ユーカリ油：ユーカリノキの葉を水蒸気蒸留して得られた精油でシネオールを主成分とします。シネオールは無色の樟脳臭の液体です。ユーカリ油は、賦香剤として、うがい薬及び去痰薬（配合剤）に添加されるほかに、防腐剤、矯味剤としても用いられます。

日本で販売されている小児のかぜに伴う諸症状の緩和を目的とする貼付剤（医薬部外品）

※成分表示は商品100gに含まれる量

商品名 (製造-販売会社)	オウバク軟 (調) エキス (g)	dL-カンフル (g)	テレピン油 (g)	ユーカリ油 (g)	l-メントール (g)	備 考
カゼピタンハップ (帝國製薬-小林製薬)	1.0 (オウバク3.3g)	0.5	0.4	0.2	0.2	3歳未満使用不可
エスタック. かぜハップ (かぜシート) (ダイヤ製薬-エスエス製 薬)	1.0 (オウバク3.3g)	0.5	0.4	0.2	0.2	3歳未満使用不可
かぜのはっふ (ダイヤ製薬-日邦薬品)	1.0 (オウバク3.0g)	0.5	0.4	0.2	0.2	3歳未満使用不可
HISAMITSU 貼るかぜ シップ (救急薬品-久光製薬)	1.0 (オウバク3.0g)	0.5	0.4	0.2	0.2	3歳未満使用不可
ハルトかぜパップ (救急薬品-広貫堂)	—	1.0	—	0.5	0.7	チミアン油0.5g カミツレチンキ0.5g ニクズク油0.3g 2歳未満使用不可
カゼゴールドパップ (救急薬品-第一薬品)	—	1.0	—	0.5	0.7	チミアン油0.5g カミツレチンキ0.5g ニクズク油0.3g 2歳未満使用不可
カコナールかぜパップ カコナールかぜパップ ハーフサイズ カコナールこどもかぜ パップ (救急薬品-ゼファーマ)	—	1.0	—	0.5	0.7	チミアン油0.5g カミツレチンキ0.5g ニクズク油0.3g 2歳未満使用不可
かぜパップニッスイ (日水製薬)	1.0 (オウバク3.3g)	0.5	0.4	0.2	0.2	3歳未満使用不可

※使用時には必ず添付文書でご確認下さい。

(1) より引用改変

[有害事象が発生した場合の対応]

製造販売業者又は独立行政法人医薬品医療機器総合機構の消費者くすり相談室

(TEL:03-3506-9457、月曜～金曜、9～17時)に連絡して下さい。

【参考資料】

(1) 厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/topics/index.html> ,医薬食品局

(2) O T Cハンドブック2002-03,学術情報流通センター (2002)

(3) 医薬品添加物事典2000,薬事日報社 (2000)

(4) PHYSICIANS' DESK REFERENCE (PDR) FOR NONPRESCRIPTION DRUGS AND DIETARY SUPPLEMENTS (2005)